【令和5年度　授業改善推進プラン】

板橋区立志村第二小学校

【国語】

■児童の状況	○読書に親しむ児童が多い。物語を楽しんで読んだり、話し合ったりする活動に取り組むことができる。一方で、説明の順序や要点、筆者の考えや主張を正確に読み取ったり、文章の表現を根拠に登場人物の気持ちを想像したりすることが苦手である。 ○自分で文章の構成を考え、相手に向けて分かりやすく書く力が不足している。 ○漢字や語彙の定着が十分な児童と、そうでない児童との差が開いている。
■指導についての課題	○主語・述語の対応や、文章の内容を明確に捉えられるような問いかけをする。 ○自分の考えを書くことに苦手意識をもっている児童の抵抗感を減らすことが必要である。 ○既習事項を定着させ、実生活で漢字や語彙を活用できるようにしていくことが必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○「何がどうした」「何について説明されているのか」等、主述のつながりや要点がつかみやすい問いかけを行うことで、正確に読み取る力を育てる。文章に線を引かせるなどして、文章構造が視覚的に分かりやすくなるようにする。 ○学力モジュールの時間を活用し、繰り返し学習したり、漢字テストを実施したりすることで既習事項の定着を図る。 ○例文を示すことで、文章の書き方の工夫が分かるようにする。

【社会】

■児童の状況	○社会の仕組みや自分の生活に関わる事象に興味関心をもち、意欲をもって学習に取り組むことができている。 ○それぞれの生活体験や興味関心の差によって、既知の情報や気付きに個人差がある。そのことが学習意欲にも差を生じさせている。 ○資料から必要な情報を読み取ったり、情報を整理して自身の知識や他の社会的事象と比較・関連付けて考え記述したりする力が不足している。
■指導についての課題	○興味関心の低い児童を授業にどのように引きつけ、おさえるべきポイントをどのように定着させていくか。 ○資料から必要な情報を正しく読み取ることが難しい児童がいる。一つの資料から必要な情報を読み取ることと、資料同士を比較・関連付けて多角的に読み取ることの両面を指導していく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○３・４年生は学習内容の中で身近な地域に関わる教材があるので、見学・体験活動を積極的に取り入れ、学習内容を実感的に理解できるように指導する。 ○５・６年生は学習内容が難しくなっている。見学・体験活動を取り入れにくいが、見学や体験ができる学習内容については、できるだけ取り入れるようにしていく。また、デジタル教科書やＮＨＫ　for School などの映像コンテンツを活用して理解しやすいように指導していく。 ○表やグラフの読み取り方を指導したり、複数の資料を比較・関連づけて考える指導を行ったりして、読み取る力を育てる。また、読み取って分かったことを知識として定着できるように書いてまとめる活動などを意図的・計画的に取り入れていく。 ○一人一台端末を活用して、自らすすんで調べたりまとめたりするなど、意欲的に学習できるようにしていく。

【算数】

■児童の状況	○前の学年で学習したことが概ね定着している児童が多い。 ○少人数指導を行うことで、自分の実態にあったクラス選びをすることができていると感じている児童が多い。 ○計算処理は得意でも、筋道を立てて考えたり、説明したりすることが苦手な傾向が見られる。
■指導についての課題	○基礎学力が十分に身に付いていない児童には、具体物を用いた操作活動を取り入れていく必要がある。 ○身のまわりにある数量や図形を用いた算数的活動を日常的に取り入れていく必要がある。 ○自力解決の時間や図や式を用いて自分の考えを表現させる時間を十分に取る必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○レディネステストを行い、個々の児童の実態を把握し、個に応じた指導や支援の在り方を工夫する。 ○ペアや少人数で考えを伝え合うことができる児童は比較的多いので、個人→ペア・少人数→全体の流れを意識して指導を行い、より多くの児童が自信をもって説明できるようにする。また、ICT を活用して全体に共有し、児童が相互に考えを伝え合い、発展させていく協働的な学習活動を充実させる。 ○何を求める式か、答えが何を意味しているのか、常に問い返し考えさせることで、立式の根拠や筋道を立てて考える経験を積み重ねる。 ○見通しをもって問題に取り組むことができるようにするため、既習事項や他の単元とも関連付けながら横断的に指導を行っていく。

【理科】

■児童の状況	○昨年度から理科専科の授業となり、理科器具に触れる機会が増え、機器の操作が上達している。特に、顕微鏡を使った観察では児童一人ひとりが対象物へのピント合わせが正確にでき実験時間を有意義に使うことができている。一方で、中学年はマッチを擦る、駒込ピペットで水を吸う、雑巾を絞って準備するなどの基本的な操作ができていないため指導が必要である。 ○理科実験への主体的に取り組む意欲は高く、生物や植物の観察や、各学年の実験へ意欲的に取り組んでいる。 ○実験結果を記録したり、その結果から何が分かるのか考察したりする力が徐々に身に付いているが、十分な達成度には達していない。
■指導についての課題	○実験機器が徐々に整備されているので、一人ひとりの児童が実験機器に触れる機会が増えている。だが、未整備な備品もあり一人一台実験に向けて継続的な整備が必要である。また、自然環境の少なさを補うために多様な植物を育てていくことが必要と言える。 ○実験結果から考えられる『考察』や『まとめ』について、記録する力の継続的な指導が必要である。 ○理科が専科教科となったため、授業時間に制約があり、天候への対応や実験時間確保への柔軟な対応ができない課題がある。 ○教室での理科授業が少ないため、科学教材や自然環境を各教室に整備することが少なくなっている。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○実験機器や自然環境をより整備して主体的に実験できるようにしていく。実験機器を整備することでグループ活動の中でも児童一人ひとりが実験に取り組める環境を整える。また、自然観察や自然事象を使った実験に対応できるよう、継続的に植物を生育し続け授業に対応できるようにする。 ○週２時間の専科授業で完結できるように、教材教具の厳選や整備、事前に自然環境を整備しておくなど、工夫を加えながら授業を進める。 ○理科授業の流れを明確にして、「問題」⇒「実験方法」⇒「予想」⇒「結果」

	⇒「考察」⇒「まとめ」ができるように指導する。 ○毎時間のノート提出を継続して行い、『考察』『まとめ』が適切に記述できるように評価・指導していく。 ○理科授業が限られており、発展的な理科教材の扱いができないため、休業期間などを利用して『科学教室』を実施し、授業から発展した教材を扱い理科への関心の高い児童への指導をしていく。

【生活】

■児童の状況	○入学前の経験の差が大きいが、どの活動にも意欲的に取り組んでいる。 ○２年生ではまとめに一人一台端末を活用した。 ○観察や活動の記録をする力には個人差があり、文章を続けて書くことが難しい児童もいる。
■指導についての課題	○児童は植物の栽培に意欲があるが、水やりの時間の確保が難しい。また、今年度は異常な暑さのため生育が例年と違った。ミニトマトは育ったが、オクラは育ちにくかった。教科書では数種類を育てるようにあったが、栽培環境に適さないものもある。 ○植木鉢の置き場所も課題である。 ○一人一台端末を活用したまとめ方を工夫したい。 ○低学年は、家庭の協力に頼るところが大きい。 ○書くことに苦手意識をもつ児童への手助けとして、具体的な視点を示したり、ワークシートを工夫したりする必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○２年生は、全員が育てやすいミニトマトを選んで育てさせる。 ○水やりがしやすいように植木鉢を置く場所を工夫したり、ペットボトルを下駄箱に置いたりするなどの対策が必要。また、植木鉢を置く場所に届く長さのホースを購入し、気温が高い日の対応がしやすいようにする。 ○上学年の総合の学習発表を聞くなど異学年交流をすることにより、一人一台端末をより活用できるようにする。 ○ワークシートを書く際には、視覚・聴覚・嗅覚・触覚といった具体的な視点を提示したり、形式の異なるものを数種類用意したりする。また、横書きの書き方（読点の打ち方、数字の書き方）についても指導する。

【音楽】

■児童の状況	○どの活動にも意欲的に楽しく取り組む児童が多い。 ○コロナウイルス感染症対策で歌唱やリコーダー、鍵盤ハーモニカの活動が十分に行えていなかったので、それらの技能を身に付けられていない児童が多い。
■指導についての課題	○コロナ禍で活動が制限されていた歌唱などの取り組みを行い、声を出す楽しさを味わわせる。 ○一人一台端末を取り入れた授業づくり。 ○音楽を聴いて感じ取ったことと気付いたことの関わりについて考えさせ、それらが生み出す曲のよさを味わわせる。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○異学年同士鑑賞する機会を設け、児童が音楽に対して目標をもち、意欲的に取り組めるような機会をつくる。 ○一人一台端末を活用し、授業のめあてを確実に達成出来るようにさせる。 ○日本や海外の音楽を聴いたり、体験したりする機会を設け、感想文を書く活動を取り入れる。（例：全学年＝日本の音楽鑑賞会の実施、3年生＝和太鼓、4年生＝箏体験、５．６年＝弦楽器・声楽コンサート鑑賞）

【図工】

■児童の状況	○全体的に図画工作に対して意欲的に取り組む児童が多い。材料に親しみ、新しい用具の習得にも関心をもって学習を進められている。一方で各学級に１割程度の自己調整力が十分に育成されていないため、設定された時間内で完成に至らない児童もいる。
■指導についての課題	○どの児童も知識・技能を習得できるように個別支援を確実に行う。作品づくりが主になるが、作業面での目標（（例）「作品を完成させよう」）を設定するのではなく、「どんな力を付けさせたいか」を明確にして、各授業の目標を設定する。また、児童自身が課題を見付け、探求的に学ぶことができるように授業の提案をする。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○ICT を活用し、すべての児童に同様に授業の目標が理解できるようにする。 ○図画工作科の教科性でもある、手や体全体の感覚を使って、材料や用具に親しみながら創造力を育む内容と、ICT を使った個別最適な学び、協働的な学びとのバランスを考えて授業カリキュラムや９０分の授業展開を組む。 ○「主体的で対話的な深い学び」を毎回の授業において具体的にイメージし、題材や授業の流れをくむ。

【家庭科】

■児童の状況	○自分の生活を振り返ったり、バランスのよい食事について考えたりすることで、自立して生活しようとする態度が芽生えてきている。 ○手縫い製作について、興味をもち積極的に取り組もうとしている。
■指導についての課題	○生活の中で使われる道具や学習用語について、実感を伴って理解させる必要がある。 ○自己の生活を振り返り、よりよい生活に向けて意識を高め実践していくために、作業や実習の時間を計画的に取り入れるよう設定する必要がある ○製作作業では、個人差が大きいので個別指導が必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○基礎基本を定着させるために１つ１つの作業を細分化したり、ＩＣＴを活用して分かりやすく把握できるようにしたりすることで、理解を深めたい。 ○実習や作業前には事前に教師が示範して理解を促し、児童の意欲を喚起する指導を行う。

【体育】

■児童の状況	【低学年】 ○ほぼ全員が様々な活動に対して積極的に楽しんで取り組んでいる。 ○勝ち負けにこだわり、結果を受け入れられない児童が多い。 【中学年】 ○体力が向上したりできることが増えたりすることで自信をもって活動に取り組んでいる。 ○ルールを守れずトラブルをが生じることがある。 【高学年】 ○性別や能力差に関わらずみんなが楽しめるように工夫している。 ○苦手な種目（水泳・鉄棒・器械運動など）に対して消極的になりやすい。 ○ボールを扱う活動では、技能習得の差が非常に大きい。
■指導についての課題	○学習規律を守らせながら活動させる必要がある。 ○動作習得ができるよう繰り返し取り組める機会を保障する必要がある。 ○活動内容を把握し、自分のめあてを振り返って考えさせる必要がある。 ○夏場の指導は、気温が高く、熱中症を考慮しながら進める必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○整列の仕方や合図の種類などを統一して使えるように指導し、どの学年でも同じように学習に取り組めるようにする。

	○話し合い活動を授業で積極的に取り入れ、動きのポイントを共有する時間や試す時間を適宜設け、動作習得がしやすくなるようにする。 ○ICT や学習カードなどを用いて、めあてに沿った学習をしたり自分の考えを記入したりすることで活動内容の把握や振り返りをしやすくする。 ○低・中・高学年の２年間ごとで授業内容を行えるよう考え、進級の際に行った運動と行っていない運動の引き継ぎを行い、未実施にならないようにする。

【外国語】

■児童の状況	○ピクチャーカードを見ながら英単語を意欲的に何度も復唱し言葉の意味を理解し正しく発音しようとする児童が多い。 ○知っている単語や文などから、相手が伝えようとしている内容を理解する力が育っている。 ○ＡＬＴやＣＤの音声を聞き取る活動では集中して正確に聞き取ろうと意欲的に取り組んでいる。 ○慣れ親しんでいる英単語や英文の習得に個人差があるので、積極的に発言する児童が偏る場合がある。
■指導についての課題	○自己表現する場面や対話的な学習における言語活動では、表現することに消極的だったり、英語を使うことに不安を感じたりして、声が小さくなる児童がいる。 ○アクティビティに参加する態度は大変素晴らしいが、学習活動のめあてを意識することが難しい児童がいる。 ○高学年では、既習の学習をもとに音と文字とを結びつける力がより必要である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○外国語を通して交流したり、国際理解を深めたりするよさを体験的に気付かせるため、ＡＬＴや友達との言語活動の場面を十分に設定する。 ○ＩＣＴ機器を効果的に活用し、歌やチャンツ、外国語の音声、基本的な言語に慣れ親しむ機会を設ける。 ○授業のめあてや英語での言語活動の目的を意識させ、学んだことが実感できるようにふり返りを丁寧に行う。

【総合】

■児童の状況	○どの学年も意欲的に取り組んでいる。高学年になると自分なりの課題を考えて取り組めるようになっている。 ○３年生はカイコを１人１匹ずつ飼育することにより責任感や生き物から恩恵を受けることを考えることができた。 ○４年生から一人一台端末でまとめる活動を取り入れ、高学年ではほとんどの児童が一人一台端末を活用して情報を集め、スライドにまとめることができるようになっている。他者意識をもってまとめたり、発表したりする姿が育っている。 ○必要な情報を取捨選択し、端的にわかりやすくまとめることが難しい。
■指導についての課題	○生き物の飼育活動については暑さ、休日の餌やりなどの飼育方法など今までにはなかった課題が生じているので、学習活動として適切であるかどうか再検討が必要と考える。 ○ICT の活用能力の差が大きい。入力速度もそうだが、情報を精選する力が必要。ネット上の記事や文章を総合的にまとめ、自分の言葉で説明できるようになるとよい。 ○場合によっては学校や地域の特色にあわせた指導計画を練りにくいことがあって困ることがある。

■授業革新推進に向けての具体的な方策	○総合以外でもまとめに一人一台端末の活用を取り入れて指導していく。 ○iCS に依頼し、可能であれば地域の方や奨学会の方を講師でお招きして児童のために働きかけてくださることも面白い取り組みになるのではないか。

【特別の教科　道徳】

■児童の状況	○道徳の時間を通して、自分だったらどうしようと考えることが好きな児童が多い。 ○今日はどんな教材を読むのかな、と楽しみにしている児童が多い。
■指導についての課題	○自分ごととして内容項目に沿った考えをもつことができない児童が多い。また、思いはあるが、形にして意見を話したり、深めたりすることが苦手な児童が多い。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	○授業終わり部分の「自分自身について考える場面」では、児童の実態にあった発問ができるようにする。 ○導入では児童がはっとするようなしかけを教師が行い、授業に入るための意識作りをする。 ○終末では、児童にとって心に残るような教師の説話や取り組みの紹介等をする等、工夫をする必要がある。